

誰一人取り残さない 安全安心なやさしいまちを目指して

Re Start

福祉課（内線222）

Vol.19 薬物に手を出す若者④ ～最も効果的な解決策は～

一旦、薬物依存症になると脳は完全に治ることはないといわれています。しかし、正しく治療を受け薬物を止め続ければ、通常の生活を取り戻すことができ、これを「回復」と言います。

ただし、薬物に侵された体と脳の回復、薬物によって歪んでしまった考え方や生活習慣を正常化する心の回復、そして薬物依存によって壊されてしまった人間関係の回復と、いくつかの段階を経ていく必要があります。それは長い年月を要することであり、再び薬物に手を出してしまう恐れもあります。

薬物依存を正しく理解し、手を出さないことが最も効果的な解決策であることに変わりはありません。若者が安易に薬物に手を出さないよう、家族や地域で見守りましょう。

依存症に関する相談窓口はこちら
岐阜県依存症相談窓口
(精神保健福祉センター)



人権感覚を高め お互いを認め合う 人権尊重のまちづくり

人権のまど

市民活動課（内線357）

日本固有の同和問題(部落差別)を 考えてみませんか

同和問題（部落差別）は、日本固有の人権問題です。日本社会の歴史的過程で形作られた身分差別により、国民の一部の人たちが長い間、経済的、社会的、文化的に低い状態に置かれることを強いられ、職業や住むところを制限されてきました。

同和地区（被差別部落）に住む人は、その地区の出身というだけで、結婚を反対されたり、就職で不平等に扱われたりするなど、日常生活でさまざまな差別を受けてきました。また、情報化が進んだ現代では、インターネット上で特定の個人や地域を対象とする誹謗中傷の差別表現も見られます。

人は自分の意思で生まれるところを選ぶことはできません。同じ人間である以上、一人一人の人権が尊重されなくてははいけません。

同和問題（部落差別）を自らの問題としてとらえ、正しく理解し、差別のない社会を創っていきましょう。

土岐商写真部×広報とき 土岐の写真を撮り隊

Vol.12 はるみつけ

今回は、土岐商業高校の中で「はるみつけ」をしました。私たちの学校は自然に囲まれ、季節の移り変わりがいろいろなところで見られます。今年も春が来たのかと心躍りました！色のなかった冬から花や草木が色づく鮮やかな季節になりました。これから、夏にかけて緑一色に染まっていくのが楽しみです。



撮影班
(3年生)
渡邊 さえ
松永 萌依
柴田 美月